

# 小麦栽培情報 4月号

令和8年3月24日  
J A 柳 川  
南筑後普及指導センター

## 1 生育概況

令和8年産小麦は、播種時期等により生育に差がみられるため、**出穂期も差が生じる見込みです。**そのため、小麦の生育に応じた管理作業に努めます。

また、今後の降雨による影響は大きいいため、枕地や排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないよう排水対策を徹底します。

### 予想出穂期（11月25日頃播種の場合）

「シロガネコムギ」：3月31日頃

「ミナミノカオリ」：3月31日頃

※出穂期は、ほ場全体の40～50%の茎が出穂した日です。

※予想出穂期は今後の気温次第で前後する可能性があります。

## 2 赤かび病防除

「赤かび病」は麦の収量、品質に大きく影響します。食品の安全性が問われる中で、カビ毒であるデオキシニバレノール（DON）が取り沙汰され、農産物規格規定上、赤かび病被害粒混入限度0.0%と厳しい基準となっています。

赤かび病予防を行うことが売れる麦の最低条件となっています。

赤かび病の防除適期は、**開花期（出穂後7～10日）**です。生育により出穂時期は異なりますので、**必ず開花（白い葇が見える）を確認し、適期防除に努めます。**

### 防除適期（11月25日頃播種の場合）

「シロガネコムギ」 4月7日～

「ミナミノカオリ」 1回目：4月7日～

2回目：1回目の5～7日後

**※上記の防除適期は、3月31日頃に出穂したほ場の目安です。生育により出穂期は異なりますので、ほ場ごとの状況を確認して防除を行います。**

※出穂期以降に降雨や曇天が続く場合は、シロガネコムギでも赤かび病が多発生する恐れがあるため、2回目防除（1回目防除の5～7日後）を行います。

<使用する薬剤>

	薬剤名	10a 当り使用量	備考
粉剤体系	ワークアップ粉剤DL	3 kg	使用回数：3回以内 収穫7日前まで
液剤体系	ミラビスフロアブル	2,000倍 100L	使用回数：2回以内 収穫7日前まで
無人航空機 体系		16倍 0.8L	

### 3 「ミナミノカオリ」の穂揃期追肥

本年産は、生育期間中降雨が少なかったため、茎数が平年に比べ多く、子実タンパク質含有率（目標値 12.0%）が確保できない可能性があります。そのため、**播種量が多いほ場（7kg以上）**や、**生育が旺盛なほ場では、穂揃期の追肥量を増肥してください。**また、尿素を葉面散布する場合は、高温時（25℃以上）や高濃度（5 kg/10a 以上）での散布は葉焼けが激しくなるため、高温時を避け、2回に分けて散布します。

(10a 当り施用量)

肥料名	1回目防除時 (出穂後7～10日)	2回目防除時 (1回目の5～7日後)
硫安	10～20kg	-
尿素	2.5～5kg/水 100L	2.5～5kg/水 100L

※窒素成分 2kg/10a(尿素で 4kg、硫安で 10kg)ごとに、タンパク質含有率が 1%向上します。

#### 農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル(①適用作物、②使用量や希釈倍数、③散布時期や総使用回数、④有効期限)を確認!
- 2 散布時には近隣作物や住宅への飛散防止対策を徹底!
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄!
- 4 防除履歴の正確な記帳!